

にんぎょうとうげ



発行：国立研究開発法人日本原子力研究開発機構
バックエンド研究開発部門
人形峠環境技術センター 総務課
岡山県苫田郡鏡野町上齋原1550番地
電話 0868-44-2211 FAX 0868-44-2502
HPアドレス <http://www.jaea.go.jp/04/zningyo/index.html>

平成29年度 事業計画

人形峠環境技術センター(以下「センター」という。)は、ウラン取扱施設や鉱山関連施設の廃止措置を継続しつつ関連する技術開発等を進めます。

業務の実施にあたっては、安全確保を最優先とした効率的な業務の推進に努めます。また、地域社会との共生及び成果普及への取り組みなどを継続します。

昨年度公表した「ウランと環境研究プラットフォーム」構想については、安全・安心や地域社会への貢献等の視点での意見・提言をいただく場(懇話会)を設け、事業計画へ反映します。

平成29年度のセンターの取り組み事項は以下のとおりです。

1. 事業(開発・研究等)に関すること

- 1) ウラン濃縮原型プラントは、前年度に終了した滞留ウラン回収作業に使用した設備等の停止措置を進めます。
- 2) 製錬転換施設及び解体物管理施設は、放射性廃棄物ドラム缶や解体物等を収納したコンテナの内容物調査、非破壊測定、詰替え及び不要物品等の処置を継続します。
- 3) 濃縮工学施設は、使用を終えた設備の解体・除染済部品のクリアランス、澱物類の処理方法の確立を目的とした基礎試験及び不要物品等の処置を継続します。
- 4) 鉱山施設は、適切な維持管理を継続するとともに、鉱さいたい積場の長期にわたる安全性を確保

するための措置に必要な調査等を継続します。

- 5) センター各施設、設備及び放射性廃棄物の安全かつ適正な管理を継続します。
- 6) 東京電力(株)福島第一原子力発電所の事故の収束に向けた対応として、環境修復の技術開発やコミュニケーション活動等への支援を継続します。

2. 安全確保・環境保全に関すること

- 1) 品質保証活動、潜在的リスクへの対策、基本動作の徹底及び現場でのコミュニケーションの活発化等により、安全確保、法令遵守を最優先とした事業活動を継続します。
- 2) エネルギー管理により省資源を推進し、地球温暖化防止等、環境に配慮した事業活動を継続します。

3. 地域・社会への対応に関すること

- 1) 地域振興への協力、事業説明会等の開催、広報紙の配布等を継続し、地域との積極的なコミュニケーションを図り、地域社会との共生に努めます。
- 2) 地元の大学や高専との連携、地元自治体や民間の企業との交流の推進を継続します。
- 3) ホームページ等を活用し、センター事業内容の紹介、研究開発成果及び環境モニタリングデータ等の情報公開を継続し、適時、分かり易い情報発信により、地域社会の理解と安心の向上に努めます。
(計画管理室)

人形峠自然百景

『オキナグサ』

キンポウゲ科の多年草で日当たりのよい山野に自生する。開花後、白い雌しべが羽毛状に長く伸びるところを老人の銀髪に例えて「オキナグサ(翁草)」と呼ばれる。

人形峠センター内では、製錬転換施設から旧ヒープ施設に向かう道路沿いで広くみられる。

開花時期はGW明けから5月中

オキナグサ



シリーズ 人形峠 今昔物語

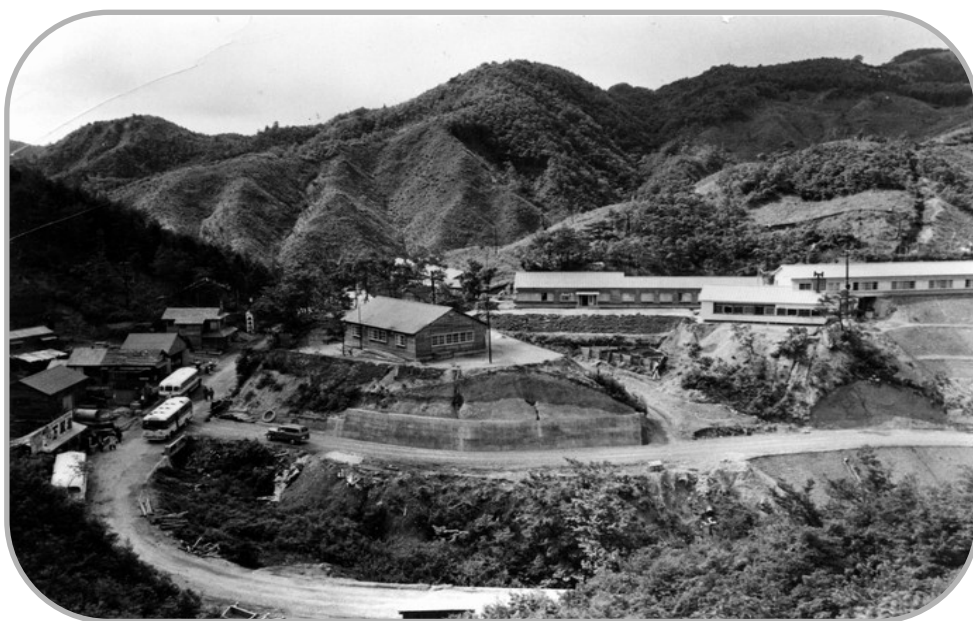
～第1回「ウラン鉱脈の発見、人形峠事業所の開所時代(1955年～1962年頃)」～

1955年(昭和30年)11月、当時の国道179号線の県境に近いところでウラン鉱床の露頭が発見されたことをきっかけに、1957年8月に前身である「原子燃料公社人形峠出張所」が人形峠に開所されました。

以降60年、原子力の平和利用を目的とした研究及び技術開発に取り組んできました。

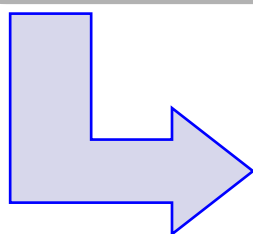
広報紙「にんぎょうとうげ」では、開所60周年を記念して、当時と現在の状況を比較してシリーズで思い出写真を紹介していきます。

第1回は、ウラン鉱脈が発見されてから事業所が開所された頃の様子を紹介します。



1960年の人形峠風景
(国道179号線県境)

正面に原子燃料公社人形峠出張所、右手側から奥に独身寮、当時は津山-倉吉を結ぶ交通の要所で、路線バスの休憩所にもなっており茶店等で賑わっていた。



同じアングルで撮影した現在の状況(2017年6月9日撮影)

道路周辺の茶店等の跡地は地山化し草木が生い茂っている。人形峠出張所から独身寮の跡地は、人形峠から高清水高原を經由して白州山までのトレッキングコースの整備が進められている。(平成32年春完成予定)





1955年11月 人形峠付近でのウラン鉱床の発掘調査



「ウラン鉱床露頭発見の地」記念碑



1957年8月 原子燃料公社人形峠出張所の開所時のメンバー



1962年7月 高清水におけるボーリング調査



1958年4月 峠二号坑のウラン鉱床調査

ボランティア清掃実施



ゴミを回収中

5月20日(土)、人形峠環境技術センター所長はじめ、従業員等約60名の参加のもとボランティア清掃を実施しました。

県境にあるセンターから岡山側と鳥取側の町道を下りながら、国道179号線に至るまでの区間で清掃作業をしました。

今後も環境美化に努めます。

(総務課)



ゴミの仕分け中

とっとり共生の森事業実施



倒れた植栽木を 添え木で固定

5月20日(土)、安全等連絡協議会メンバーと鳥取県の担当者の参加のもと、「とっとり共生の森事業」を実施しました。

センター近隣の三朝町木地山において積雪により倒れた植栽木を起す作業や除草除去・施肥作業を行いました。

(総務課)



参加者の皆さん

鏡野中学校職場体験学習

6月6日から6月8日にかけて、鏡野中学校2年生の生徒さん1名が当センターで職場体験をされました。



放射線測定

これは同中学校の職場体験学習(岡山チャレンジワーク14)によるもので、期間中、放射線測定、水質測定、設備点検、事務系業務、電子顕微鏡によるミクロの世界等を体験され、「将来の進路を考えていくきっかけとなる有意義な体験ができ、ありがとうございました。」との感想をいただきました。

(総務課)



電子顕微鏡で見るミクロの世界